

ごあいさつ

皆様お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は「稲むらの火の館」に対してご支援をいただき有難うございました。

さて、私も4月に館長に任命されて以来夢中に過ごした9ヶ月でしたが、あらためて津波防災の啓発活動にかけられる期待をひしひしと感じたところでございます。確かに防災センターは各地にあります。津波防災の施設は他にあまりないということで、ご来館いただいている方もおられるようです。それと共にやはり東日本大震災の大津波を目の当たりにして津波に無関心ではいられなくなったことも事実でしょう。



ともかく、この9ヶ月の間に来館された方々は、確認している範囲でも、東北は岩手、宮城、南は鹿児島、宮崎、四国全県、中国北陸等々です。

大学の研究者や国交省や内閣府等からも数多く来られました。マスコミの取材は、これまでお知らせしたとおり、数多くびっくりしました。

昨年12月には、スマトラ沖地震・インド洋津波から10年、本年1月は阪神・淡路大震災から20年という節目の年でもあります。あらためて、災害、防災ということを考え、「いざ」というとき、どうするか、家族で地域で考えてみませんか。

館内ではおそうじ、生け花のボランティアさん、館外の堤防等をガイドされる語り部、本当に当館は大勢の人々に支えられていると、認識をあらたにしたところです。本当にありがとうございます。今後共、よろしくお願い申し上げます。

多勢お越しいただいている「やかた」へ一年に一度はご来館いただければ嬉しいです。

稲むらの火の館館長 崎山光一

梧陵さんのお正月

明治3年の梧陵さんのお正月の様子が分かる記録がありましたので、ご紹介します。

元旦 この日は天気快晴。(和歌山市在住)

遥かに南山(故郷広村の濱口家のお墓のある方向)に向って礼拝。

家人からの新年の挨拶を受けた後、役所へ登庁し、知事への年賀等官庁での年賀行事に参加する。その後、紀州藩学習館知事としての行事に出席。この日、複数の役職員と新年の挨拶を交わし、帰宅は夜になってしまった。

二日 天気快晴。

この日も役所へ登庁し、複数の人々と挨拶を交わす。今日会った人のなかには、松山棟庵がいた。

松山は、梧陵さんが英語学校共立学舎設立計画に際し、招聘しようとした福沢諭吉には断られたが代わりに推薦された人で、現紀の川市出身の人。

夜、佐野権少参事と会談、後晩餐。
八時過ぎ就寝。

(以下略)



生け花のボランティアさんがお正月用にいけてくださったお花です。

「濱口梧陵・津波ライブラリー」



DVD コーナーを開設しました

「津波防災教育センター」にDVD視聴コーナーを開設いたしました。目録を載せます。

- | | |
|----------------------|-----|
| 1、忘れない！津波の脅威 | 34分 |
| 2、この日本人がスゴイらしい | 57分 |
| 3、復興のカギは民にあり | 57分 |
| 4、防災アニメ 稲むらの火 | 16分 |
| 5、巨大地震の巣 南海トラフを解剖する | 8分 |
| 6、濱口梧陵とその時代 | 30分 |
| 7、稲むらの火郷土の先覚者濱口梧陵 | 20分 |
| 8、その時歴史は動いた百世の安堵をはかれ | 42分 |
| 9、関東大震災を予知した、今村明恒 | 42分 |
| 10、八雲が世界に伝えた防災秘話 | 29分 |

耐久社記念館に就いて(4) 濱口 恵璋

7

濱口吉右衛門氏の社長名義は明治三十七年三月、宝山氏が赴任するまでの間であったが、この時よりも宝山氏が赴任して後、校舎を西の浜に移す頃から尤も力を注がれたのである。この移転改築に関しては莫大の経費を要し、東西両濱口家が負担する筈であったが、家政上の都合で西濱口が東濱口同様に負担することが出来なくなった為、それ以後大正九年に県立に移管する迄主として、濱口吉右衛門(容所)及び嗣子(無悶居士)が校主となって出資して居たのであった。濱口容所翁は大正二年十二月十一日に病没せられ、その後は乾太郎無悶居士が引続いて校主となり、其頃容所翁の遺書を寄贈せられることとなった。その遺書の主なものは「十三経註疏」「皇清経解」「資治通鑑」「歴史綱鑑補」「大日本史」「本朝弓馬要覧」等でその他和漢の典籍数十点数百冊に上るものである。別に珍本と云ふ程のものではないが、中でも「皇清経解」は容所翁が遺愛の書であったから少し解説を試みたいと思う。

8

何人も知る如く容所翁は実業家であって政治家、政治家であって育英に熱心、また詩文の嗜みあり、書画の風流あり至る所よからざるはなく、近来の偉人の風格を備へた方であった翁の伝記は「容所遺韻」に委しいから、委しいことは云うまいが、古来から東京日本橋小網町にある店舗の紀州国産及び醤油等の販売は勿論、年々その業務を拡張するのみならず、明治二十四年鐘淵紡績株式会社が悲境に陥った時、故中上川彦次郎氏等と重役となって整理し、また二十五年には東京商品取引所創設に尽力し、日清戦争の講和後、上海紡績株式会社を発起したり、また富士瓦斯紡績株式の取締役となって尽力し、また九州水力電気株式会社を設置したり、豊国銀行を興こしたり、東洋拓殖株式会社の設立委員となり、高砂製糖株式会社を組織したり、数へ切れぬ程種々の事業に手をだしたのみならず、明治二十九年九月、同三十一年には東京より、同三十一年八月には和歌山県より衆議院議員として選出せられ、同四十年十二月、同四十四年九月に八月には和歌山県より衆議院議員として選出多額納税議員として東京府貴

族院議員に推薦らるるのみならず、当地方にありては津木村、南広村に杉桧等の植林を大規模に経営せられ育英事業としては前に述べた通り、耐久中学校の維持に力を尽された。これは翁が幼少の折から東都に出て浜村蔵六の門に入り、いで亀田鷺谷の塾に学ぶこと多年、その間の修養が大に力をなしたもので老荘の学には深い興味を持って居ったことでも知られたが、「皇清経解」の如きも、そんな趣味から購求して愛読せられたものと思はるる。(つづく)

《 お客様の声 》

- 1、私は、フランス人。おもしろかった。稲むらの火はかっこいい。 Bye
- 2、県内に住んでいるのですが、NHK でよく見るので、一度来たいと思っていました。国道を走っていて看板が見えたので来ました。ここは子供達に見て欲しい、津波について知ってもらうのは、大切な事だと思います。

情報コーナー



私立耐久中学校創立10年記念品として、東濱口家から配られた御猪口です。耐久社に展示しています。



広小学校
3年生の作品
「防災」の紙しばいを稲むらの火の館多目的室に展示しました。

＜稲むらの火の館の紹介＞

濱口梧陵記念館／津波防災教育センター
〒643-0071 住所 広川町広671
Tel : 0737-64-1760 / FAX : 0737-64-1761
<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamurano-hi/>
*開館時間：午前10時～午後5時(受付終了4時)
*休館日：月曜日・火曜日(祝日開館)
年未年始(12/29~1/4)
*記念館だけの入場は無料です。

